昭和100年特別展

薬害の歴史をひも解く ー医薬品の光と影 ひとといのちの100年ー　シンポジウム

薬害とメディア

報道の光と影 ― 何を伝えたかったのか、何を伝えていくべきなのか

2026年

12.13（日）

14:45 – 16:45

京都市勧業館 みやこめっせ　地下1階 特別展示場

地下鉄東西線「東山」駅から北へ徒歩約8分
JR京都駅から市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車

会場とオンラインの同時開催

（オンライン参加は下記のQRコードから）

薬害の歴史は、報道の歴史でもあります。報道は、埋もれていた被害者の声を社会に届けて世論を動かし、裁判や制度改革を前に進める大きな力となってきました。その一方で、被害が広がるまで危険性を伝えられなかったこと、報道が被害者への偏見や差別につながったこともありました。
薬害は今も起き、これからも起こりえます。薬害を第一線で取材してきた記者・ジャーナリストらと共に、報道の歴史と現状を検証し、薬害を防ぐためのメディアの役割について議論します。

講 演

玉木 達也	**毎日新聞 記者** 元論説委員。厚生労働記者クラブを担当。薬害根絶を目指す被害者の思いを伝える。
岡本 晃明	**京都新聞 論説委員** 厚生労働記者クラブを担当。薬害の当事者の声と教訓を引き継ぐ取り組みを報じる。
藤谷 和広	**朝日新聞 記者** 厚生労働記者クラブを担当。薬害を学ぶ意義や被害者の語りを若い世代に伝える。
迫田 朋子	**ジャーナリスト／元NHK解説委員** 薬害エイズなど様々な薬害をリポート。現在、ビデオニュース・ドットコムで活動。

ディスカッション　コーディネーター　勝村 久司（薬害研究資料館 副理事長）

オンライン参加（Zoomウェビナー）
us06web.zoom.us/j/83909124158
ウェビナーID　839 0912 4158

（会場・オンラインとも）参加費無料、予約不要
特別展 会期　12月5日（土）– 13日（日）

主催　一般社団法人 薬害研究資料館